

(注)

- 1.記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。なお、以下の注記については、表示単位未満を切り捨てて表示しております。
- 2.有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法(定額法)、その他有価証券のうち時価のあるものについては事業年度末の市場価格等に基づき時価法(売却原価は、主として移動平均法により算定)、時価を把握することが極めて困難と認められるものについては、移動平均法による原価法又は償却原価法により行っております。なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。
- 3.土地の再評価に関する法律(平成10年法律第34号)に基づき、事業用の土地の再評価を行っております。なお、評価差額については、当該評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産に計上しております。
- | | |
|---------------------|---|
| 再評価を行った年月日 | 平成11年3月31日 |
| 当該事業用土地の再評価前の帳簿価額 | 337百万円 |
| 当該事業用土地の再評価後の帳簿価額 | 567百万円 |
| 同法律第3条第3項に定める再評価の方法 | 土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日政令第119号)第2条第3号に定める地方税法第341条第10号に基づく固定資産税評価額により算出
同法律第10条に定める再評価を行った事業用土地の決算期における時価の合計額と当該事業用土地の再評価後の帳簿価額の合計額との差額 △414百万円 |
- 4.有形固定資産(リース資産を除く)の減価償却は定額法(ただし、平成10年4月1日以後に取得した建物(建物附属設備を除く)については定額法)を採用しております。また、主な耐用年数は次のとおりであります。
- | | |
|----|--------|
| 建物 | 5年~50年 |
| 建物 | 3年~20年 |
- 5.無形固定資産(リース資産を除く)の減価償却は定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、当組合内における利用可能期間(5年)に基づき償却しております。
- 6.所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る「有形固定資産」及び「無形固定資産」中のリース資産は、リース期間を耐用年数とした定額法によっております。なお、残存価額については、リース契約上に残価保証の取決めがあるものは当該残価保証額とし、それ以外のものは零としております。
- 7.外貨建資産・負債は、主として決算日の為替相場による円換算額を付しております。
- 8.貸倒引当金は、予め定めている償却引当基準に則り、次のとおり計上しております。
- 破産、特別清算等、法的に経営破綻の事実が発生している債務者(以下「破綻先」といふ)に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者(以下「実質破綻先」といふ)の債権については、下記直接減額後の帳簿価額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者に係る債権については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認められる額を計上しております。上記以外の債権については、一定の種類毎に分類し、過去の一定期間における各々の貸倒実績から算出した貸倒実績率等に基づき引当てしております。
- 全ての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署の協力の下に資産査定部署が資産査定を実施しており、その査定結果により上記の引当を行っております。
- なお、破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額及び保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立可能見込額として債権額から直接減額しており、その金額は589百万円であります。
- 9.賞与引当金は、従業員への賞与の支払いに備えるため、従業員に対する賞与の支給見込額のうち、当事業年度に帰属する額を計上しております。
- 10.役員退職慰労引当金は、役員への退職慰労金の支出に備えるため、役員に対する退職慰労金の支給見込額のうち、当事業年度末までに発生しているものと認められる額を計上しております。
- 11.睡眠預金払戻引当金は、負債計上を中止した預金について、預金者からの払戻請求に備えるため、将来の払戻請求に応じて発生する損失を見積もり必要と認められる額を計上しております。
- 12.偶発損失引当金は、信用保証協会の責任共有制度による負担金の将来における支出に備えるため、将来の負担金支出見込額を計上しております。
- 13.所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年4月1日以前に開始する事業年度に属するものについては、通常の賃貸借取引に準じた会計処理によっております。
- 14.消費税及び地方消費税の会計処理は、税込方式によっております。
- 15.理事及び監事との間の取引による理事及び監事に対する金銭債権総額 一百万円
- 16.有形固定資産の減価償却累計額 2,459百万円
- 17.貸出金のうち、破綻先債権額は345百万円、延滞債権額は5,013百万円あります。
- なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払いの遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込がないものとして未収利息を計上しなかつた貸出金(貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」といふ。)のうち法人税法施行令(昭和40年政令第97号)第96条第1項第3号のイからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。
- また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払いを猶予した貸出金以外の貸出金であります。
- 18.貸出金のうち、3か月以上延滞債権額は97百万円あります。
- なお、3か月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払いが約定支払日の翌日から3か月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。
- 19.貸出金のうち、貸出条件緩和債権額は418百万円あります。
- なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3か月以上延滞債権に該当しないものであります。
- 20.破綻先債権額、延滞債権額、3か月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は、5,875百万円あります。
- なお、17.から20.に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。
- 21.貸借対照表に計上した有形固定資産のほか、電子計算機等及び営業用車両についてリース契約により使用しております。
- 22.手形割引により取得した商業手形の額面金額は、103百万円あります。
- 23.担保に提供している資産は、次のとおりであります。
- | | |
|------------|--------------|
| 担保提供している資産 | 預け金 3,015百万円 |
|------------|--------------|
- これらは、為替決済、日銀蔵入復代理店等の取引のために担保として提供しております。
- 24.出資1口当たりの純資産額は4,441円48銭です。
- 25.金融商品の状況に関する事項
- (1)金融商品に対する取組方針
- 当組合は、預金業務、融資業務および市場運用業務などの金融業務を行っております。

このため、金利変動による不利な影響が生じないように、資産及び負債の総合的管理(ALM)をしております。

(2)金融商品の内容及びそのリスク

当組合が保有する金融資産は、主として事業地区内のお客様に対する貸出金です。また、有価証券は、主に債券、投資信託及び株式であり、満期保有目的、純投資目的及び事業推進目的で保有しております。これは、それぞれ発行体の信用リスク及び金利の変動リスク、市場価格の変動リスクに晒されております。一方、金融負債は主としてお客様からの預金であり、流動性リスクに晒されております。

(3)金融商品に係るリスク管理体制

①信用リスクの管理

当組合は、信用リスクに関する管理諸規程に従い、貸出金について、個別案件ごとの与信審査、与信限度額、信用情報管理、保証や担保の設定、問題債権への対応などと与信管理に関する体制を整備し運営しております。これらの与信管理は、各営業店のほか融資部審査課及び融資部債権管理課により行われ、常務会や理事会に報告を行っております。さらに、与信管理の状況については、監査室がチェックしております。有価証券の発行体の信用リスク及びデリバティブ取引のカウンターパーティーリスクに関しては、総務部資金経理課において、信用情報や時価の把握を定期的に行うことで管理しております。

②市場リスクの管理

(i)金利リスクの管理

当組合は、ALMによって金利の変動リスクを管理しております。ALMに関する規則及び要領において、リスク管理方法や手続等の詳細を明記しており、ALM委員会において決定されたALMに関する方針に基づき、理事会において実施状況の把握・確認、今後の対応等の協議を行っています。日常的には総務部資金経理課において金融資産及び負債の金利や期間を総合的に把握し、総務部資金経理課においてキャップ分析や金利感応度分析等によりモニタリングを行い、常務会や理事会に報告しております。

(ii)為替リスクの管理

当組合は、為替の変動リスクに関して、個別の案件ごとに管理しております。

(iii)価格変動リスクの管理

有価証券を含む市場運用商品の保有については、リスク管理委員会の方針に基づき、理事会の監督の下、資金運用規程に従い行われております。このうち、資金経理課では、市場運用商品の購入を行っており、事前審査、投資限度額の設定のほか、継続的なモニタリングを通じて、価格変動リスクの軽減を図っております。

当組合で保有している株式の多くは、事業推進目的で保有しているものであり、取引先の市場環境や財務状況などをモニタリングしています。これらの情報は資金経理課を通じ、理事会及びリスク管理委員会において定期的に報告されております。

(iv)デリバティブ取引

有価証券運用基準及びデリバティブ仕組商品運用基準に基づき実施されております。

(v)市場リスクに係る定量的情報

当組合では、「有価証券」の市場リスク量をVaRにより月次で計測し、取得したリスク量がリスク限度額の範囲内となるよう管理しております。当組合のVaRはモンテカルロ・シミュレーション法(保有期間63日、信頼区間99%、観測期間1年)により算出しており、平成27年3月31日(当事業年度の決算日)現在で当組合の市場リスク量(損失額の推計値)は、全体で346,514千円です。

ただし、VaRは過去の相場変動をベースに統計的に算出した一定の発生確率での市場リスク量を計測しており、通常では考えられないほど市場環境が激変する状況下におけるリスクは捕捉できない場合があります。

③資金調達に係る流動性リスクの管理

当組合は、ALMを通して、適時に資金管理を行うほか、資金調達手段の多様化、市場環境を考慮した長短の調達バランスの調整などによって、流動性リスクを管理しております。

(4)金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によつた場合、当該価額が異なることもあります。なお、金融商品のうち預け金、貸出金、預金積金については、簡便な計算により算出した時価に代わる金額を開示しております。

26.金融商品の時価等に関する事項

平成27年3月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められる非市場株式等は、次表には含めておりません。また、重要性の乏しい科目については記載を省略しております。(単位:百万円)

	貸借対照表 計上額	時 価	差 額
(1)預け金(*1)	57,365	57,652	287
(2)有価証券			
満期保有目的の債券	599	595	△ 4
その他有価証券	15,132	15,132	-
(3)貸出金(*1)	51,785		
貸倒引当金(*2)	△1,087		
	50,697	50,841	143
金融資産計	123,795	124,221	426
(1)預金積金(*1)	121,478	121,487	△ 8
金融負債計	121,478	121,487	△ 8
(*1)預け金、貸出金、預金積金の「時価」には、「簡便な計算により算出した時価に代わる金額」を記載しております。			
(*2)貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しております。			

(注1)金融商品の時価等の算定方法

金融資産

(1)預け金

満期のない預け金については、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額の時価としております。満期のある預け金については、市場金利で割り引くことで現在価値を算定し、当該現在価値を時価とみなしております。

(2)有価証券

株式は取引所の価格、債券は取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっております。投資信託は、公表されている基準価格によっております。なお、保有目的区分ごとの有価証券に関する注記事項については27.から31.に記載しております。

(3)貸出金

貸出金は、以下の①~②の合計額から、貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除する方法により算定し、その算出結果を簡便な方法により算出した時価に代わる金額として記載しております。

①6か月以上延滞債権等、将来キャッシュ・フローの見積りが困難な債権については、その貸借対照表の貸出金勘定に計上している額(貸倒引当金控除前の額)。

②①以外は、貸出金の種類ごとにキャッシュ・フローを作成し、元利金の合計額を市場金利(LIBOR, SWAP等)で割り引いた価額を時価とみなしております。

金融負債

(1) 預金積金

要求払預金については、決算日に要求された場合の支払額(帳簿簿価)を時価とみなしてあります。定期預金の時価は、一定の金額帯および期間帯ごとに将来キャッシュフローを作成し、元利金の合計額を一種類の市場金利(LIBOR、SWAP)で割引いた時価を時価とみなしてあります。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品は次のとおりであり、金融商品の時価情報には含まれておりません。

区分	貸借対照表計上額
子会社・子法人等株式(*1)	— 百万円
関連法人等株式(*1)	— 百万円
非上場株式(*1)(*2)	27 百万円
組合出資金(*3)	10 百万円
合計	37 百万円

(*1) 子会社・子法人等株式、関連法人等株式及び非上場株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから時価開示の対象とはしていません。

(*2) 当事業年度において、非上場株式の減損処理を行った先はありません。

(*3) 組合出資金のうち、組合財産が非上場株式など時価を把握することが極めて困難と認められるもので構成されているものについては、時価開示の対象とはしていません。

27. 有価証券の時価、評価差額等に関する事項は次のとおりであります。

(1) 売買目的有価証券に区分した有価証券はありません。

(2) 満期保有目的の債券

【時価が貸借対照表計上額を超えるもの】

貸借対照表計上額	時価	差額
社債	99 百万円	102 百万円
小計	99	102

【時価が貸借対照表計上額を超えないもの】

貸借対照表計上額	時価	差額
その他	500 百万円	492 百万円
小計	500	492
合計	599	595

(注) 時価は当事業年度末における市場価格等に基づいてあります。

(3) 子会社・子法人等株式及び関連法人等株式に区分した株式はありません。

(4) その他有価証券で時価のあるもの

【貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの】

貸借対照表計上額	取得金額	差額
株式	152 百万円	124 百万円
債券	12,205	11,730
国債	6,498	6,127
地方債	2,333	2,303
社債	3,373	3,299
その他	1,571	1,419
小計	13,929	13,274

【貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの】

貸借対照表計上額	取得金額	差額
株式	0 百万円	0 百万円
債券	992	997
国債	—	—
地方債	—	—
社債	992	997
その他	210	210
小計	1,202	1,208
合計	15,132	14,483

なお、上記の評価差額から繰延税金負債179百万円を差引いた額469百万円が、「その他有価証券評価差額金」に計上されております。

28. 当期中に売却した満期保有目的の債券はありません。

29. 当期中に売却したその他有価証券は次のとおりであります。

売却価額(約定金額)	売却益	売却損
8,243百万円	559百万円	8百万円

30. 時価のない有価証券のうち、主なものの内容と貸借対照表計上額は、次のとおりであります。

内容	貸借対照表計上額
その他有価証券	
非上場株式	27百万円
その他	10百万円

31. その他有価証券のうち満期があるもの及び満期保有目的の債券の期間毎の償還予定額は次のとおりであります。

	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
債券	2,106百万円	4,002百万円	5,106百万円	1,613百万円
国債	506	701	3,306	1,613
地方債	1,399	203	699	—
社債	200	3,097	1,100	—
その他	905	400	3	501
合計	3,011	4,402	5,109	2,114

32. 繰延税金資産及び繰延税金負債の主な発生原因別の内訳は、それぞれ以下のとおりであります。

(繰延税金資産)	
減価償却費損算入限度超過額	49 百万円
貸出金償却額	1,489
貸倒引当金損算入限度額超過額	285
役員退職慰労引当金損算入額	35
賞与引当金損算入額	12
有価証券償却額	19
減損損失	17
未収収益有税償却額	3
睡眠預金引当金	2
事業税	0
その他	7
繰延税金資産小計	1,923
評価性引当額	△ 1,614
繰延税金資産合計	309
(繰延税金負債)	
その他有価証券評価差額	179
繰延税金負債合計	179
繰延税金資産の純額	130 百万円

損益計算書

(単位:千円)

科目	平成25年度	平成26年度
経常収益	2,026,693	2,322,831
資金運用収益	1,669,848	1,603,425
貸出金利息	1,204,237	1,162,680
預け金利息	173,116	175,536
有価証券利息配当金	285,212	257,928
その他の受入利息	7,281	7,280
役員取引等収益	97,544	99,752
受入為替手数料	49,979	49,892
その他の役員収益	47,564	49,860
その他業務収益	35,708	395,808
国債等債券売却益	33,285	393,603
国債等債券償還益	375	230
その他の業務収益	2,047	1,974
その他経常収益	223,592	223,845
貸倒引当金戻入益	52,366	—
償却債権取立益	34,477	43,775
株式等売却益	48,720	166,043
その他の経常収益	88,028	14,025
経常費用	1,911,950	2,206,265
資金調達費用	101,007	96,335
預金利息	78,917	66,623
給付補てん備金繰入額	21,100	29,091
その他の支払利息	989	619
役員取引等費用	149,757	129,839
支払為替手数料	29,616	30,504
その他の役員費用	120,140	99,334
その他業務費用	3,758	7,883
国債等債券売却損	3,758	7,827
国債等債券償還損	—	55
経費	1,359,815	1,375,182
人件費	886,155	864,973
物件費	455,737	491,038
税金	17,922	19,171
その他経常費用	297,611	597,024
貸倒引当金繰入額	—	212,573
貸出金償却	279,383	378,140
株式等売却損	—	215
その他の経常費用	18,228	6,095
経常利益	114,743	116,566
特別利益	—	—
特別損失	63	112
固定資産処分損	63	112
税引前当期純利益	114,679	116,453
法人税・住民税及び事業税	10,728	14,967
法人税等調整額	15,905	6,711
法人税等合計	26,633	21,678
当期純利益	88,046	94,775
前期繰越金	122,016	170,090
当期末処分剰余金	210,062	264,866

(注)1.記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。なお、以下の注記については、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

2.出資1口当たりの当期純利益 87円18銭

3.当組合は、複数事業主(信用組合等)により設立された企業年金制度(総合型厚生年金基金)を採用しております。当該企業年金制度に関する事項は次のとおりです。

(1)制度全体の積立状況に関する事項(26年3月31日現在)

年金資産の額	336,481百万円
年金財政計算上の数理債務の額と最低責任準備金の額との合計額	323,166百万円
差引額	13,315百万円

(2)制度全体に占める当組合の掛金拠出割合

(自平成25年4月1日 至平成26年3月31日) 0.770%

(3)補足説明

上記(1)の差引額の主な要因は、年金財政計算上の過去勤務債務残高29,865百万円及び別途積立金43,180百万円であります。本制度における過去勤務債務の償却方法は、期間18年の元利均等償却であり、当組合は当期の計算書類上、特別掛金16百万円を費用処理しております。

なお、特別掛金の額は、あらかじめ定められた掛金率を拠出時の標準給与の額に乗じることによって算定されるため、上記(2)の割合は当組合の実際の負担割合とは一致しておりません。

科目	平成25年度	平成26年度
当期末処分剰余金	210,062	264,866
積立金取崩額	-	-
剰余金処分量	39,971	31,615
利益準備金	10,000	10,000
普通出資に対する配当金	29,971	21,615
次期繰越金	170,090	233,250

代表理事による適正性・有効性の確認

私は当組合の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの第64期の事業年度における貸借対照表、損益計算書及び剰余金処分計算書の適正性、及び同書類作成に係る内部監査の有効性を確認いたしました。

平成27年6月30日

房総信用組合

理事長 白井 和

法定監査

独立監査人の監査報告書

平成27年5月26日

房総信用組合
理事会 御中

千葉第一監査法人

代表社員 公認会計士 田中 昌夫

当監査法人は、協同組合による金融事業に関する法律第5条の8第3項の規定に基づき、房総信用組合の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの第64期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、剰余金処分案及び注記並びにその附属明細書について監査を行った。

計算書類等に対する経営者の責任

経営者の責任は、協同組合による金融事業に関する法律及び同施行規則並びに我が国において一般に公正妥当と認められる会計の慣行に準拠して計算書類及びその附属明細書を作成し、適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から計算書類及びその附属明細書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に計算書類及びその附属明細書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、計算書類及びその附属明細書の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による計算書類及びその附属明細書の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、計算書類及びその附属明細書の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類及びその附属明細書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の計算書類及びその附属明細書が、協同組合による金融事業に関する法律及び同施行規則並びに我が国において一般に公正妥当と認められる会計の慣行に準拠して、当該計算書類及びその附属明細書に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

組合と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

法定監査の状況

当信用組合は、協同組合による金融事業に関する法律第5条の8第3項に規定する「特定信用組合」に該当しておりますので、「貸借対照表」「損益計算書」「剰余金処分計算書」等につきましては、会計監査法人である「千葉第一監査法人」の監査を受けております。

粗利益 (単位:千円)		
科目	平成25年度	平成26年度
資金運用収益	1,669,848	1,603,425
資金調達費用	101,007	96,335
資金運用収支	1,568,840	1,507,090
役員取引等収益	97,544	99,752
役員取引等費用	149,757	129,839
役員取引等収支	△ 52,213	△ 30,086
その他業務収益	35,708	395,808
その他業務費用	3,873	11,259
その他業務収支	31,835	384,549
業務粗利益	1,548,463	1,861,552
業務粗利益率	1.23%	1.47%

(注) 1. 資金調達費用は、金銭信託等運用見合費用(平成25年度・平成26年度費用はともにありません。)を控除して表示しております。

2. 業務粗利益率=業務粗利益/資金運用勘定平均残高×100

経費の内訳 (単位:千円)		
項目	平成25年度	平成26年度
人件費	886,155	864,973
報酬給料手当	731,151	709,657
退職給付費用	62,620	62,563
その他	92,383	92,752
物件費	455,737	491,038
事務費	216,232	225,504
固定資産費	57,548	60,477
事業費	32,842	35,710
人事厚生費	7,692	10,969
預金保険料	82,813	84,215
有形固定資産償却	56,890	69,103
無形固定資産償却	1,602	1,681
その他	115	3,375
税金	17,922	19,171
経費合計	1,359,815	1,375,182

役員取引の状況 (単位:千円)		
科目	平成25年度	平成26年度
役員取引等収益	97,544	99,752
受入為替手数料	49,979	49,892
その他の受入手数料	47,551	49,859
その他の役員取引等収益	13	1
役員取引等費用	149,757	129,839
支払為替手数料	29,616	30,504
その他の支払手数料	2,020	3,544
その他の役員取引等費用	118,120	95,790

受取利息および支払利息の増減 (単位:千円)		
項目	平成25年度	平成26年度
受取利息の増減	△ 43,436	△ 66,423
支払利息の増減	△ 3,730	△ 4,672

業務純益 (単位:千円)		
項目	平成25年度	平成26年度
業務純益	199,052	486,990

主要な経営指標の推移 (単位:千円)					
区分	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
経常収益	2,214,530	2,035,128	2,040,943	2,026,693	2,322,831
経常利益	△ 265,841	△ 397,346	184,523	114,743	116,566
当期純利益	△ 302,001	△ 401,286	126,233	88,046	94,775
預金積金残高	116,487,939	117,196,828	118,893,329	120,392,212	121,478,333
貸出金残高	54,642,928	53,475,435	52,043,144	51,623,137	51,785,688
有価証券残高	23,211,958	23,765,325	21,597,521	22,521,982	15,769,787
総資産額	122,080,043	122,371,146	124,506,913	126,036,328	127,094,201
純資産額	4,483,565	4,160,711	4,582,565	4,752,853	4,855,293
自己資本比率(単体)	8.67%	7.83%	8.10%	8.25%	8.17%
出資総額	774,039	814,013	944,558	1,053,060	1,093,168
出資総口数	774,039口	814,013口	944,558口	1,053,060口	1,093,168口
出資に対する配当金	(年3%)22,952	(年3%)23,763	(年3%)26,308	(年3%)29,971	(年2%)21,615
職員数	168人	164人	162人	164人	160人

(注) 1. 残高計数は期末日現在のものです。

2. 総資産額は、債務保証見返を含んで表示しています。

3. 職員数は、平成24年度より育児休業者及び常勤嘱託を含めて表記しております。

組合員の推移 (単位:人)		
区分	平成25年度末	平成26年度末
個人	27,757	27,647
法人	2,384	2,385
合計	30,141	30,032

資金運用勘定、調達勘定の平均残高等				
科目	年度	平均残高(百万円)	利息(千円)	利回り(%)
資金運用勘定	25年度	125,564	1,669,848	1.32
	26年度	126,327	1,603,425	1.26
うち貸出金	25年度	51,656	1,204,237	2.33
	26年度	51,423	1,162,680	2.26
うち預け金	25年度	51,473	173,116	0.33
	26年度	52,745	175,536	0.33
うち金融機関貸付等	25年度	1,800	15,999	0.88
	26年度	1,800	17,002	0.94
うち有価証券	25年度	22,247	285,212	1.28
	26年度	21,952	257,928	1.17
資金調達勘定	25年度	122,129	101,007	0.08
	26年度	123,123	96,335	0.07
うち預金積金	25年度	121,990	101,007	0.08
	26年度	123,001	95,715	0.07
うち譲渡性預金	25年度	-	-	-
	26年度	-	-	-
うち借入金	25年度	-	-	-
	26年度	-	-	-

(注) 資金調達勘定は金銭信託等運用見合額の平均残高(平成25年度、平成26年度残高はともにありません。)および利息(平成25年度、平成26年度利息はともにありません。)を、それぞれ控除して表示しております。

オフバランス取引の状況 (単位:千円)	
該当する取引は	ありません

総資産利益率 (単位:%)		
区分	平成25年度	平成26年度
総資産経常利益率	0.09	0.09
総資産当期純利益率	0.06	0.07

(注) 総資産経常(当期純)利益率=経常(当期純)利益/総資産(債務保証見返を除く)平均残高×100

先物取引の時価情報

(単位:百万円)

該当する取引はありません

先物取引：取引所に上場された定型商品で、将来の一定期日における価格を現時点において売買する取引のこと。

総資金利鞘等

(単位:%)

区分	平成25年度	平成26年度
資金運用利回(a)	1.32	1.26
資金調達原価率(b)	1.18	1.18
資金利鞘(a-b)	0.14	0.08

有価証券、金銭の信託等の取得価格または契約価格、時価及び評価損益

(単位:百万円)

項目	取得価格または契約価格	時価	評価損益
有価証券	25年度末	21,869	22,521
	26年度末	15,120	15,769

(注)1.「時価」は、「金融商品に係る会計基準の設定に関する意見書」(企業会計審議会:平成11年1月22日)に定める時価に基づいて表示しております。なお、時価のないものについては、帳簿価格で表示しております。

2.「金銭の信託」、「デリバティブ等商品」については、取扱いがなく表示しておりません。

その他業務収益の内訳

(単位:百万円)

項目	平成25年度	平成26年度
外国為替売買益	-	-
商品有価証券売買益	-	-
国債等債券売却益	33	393
国債等債券償還益	0	0
金融派生商品収益	-	-
その他の業務収益	2	1
その他業務収益合計	35	395

預貸率および預証率

(単位:%)

区分	平成25年度	平成26年度	
預貸率	(期末)	42.87	42.62
	(期中平均)	42.34	41.80
預証率	(期末)	18.70	12.98
	(期中平均)	18.23	17.84

1店舗当りの預金および貸出金残高

(単位:百万円)

区分	平成25年度末	平成26年度末
1店舗当りの預金残高	7,524	8,677
1店舗当りの貸出金残高	3,226	3,698

(注)預金残高には譲渡性預金を含んでおります。

職員1人当りの預金および貸出金残高

(単位:百万円)

区分	平成25年度末	平成26年度末
職員1人当りの預金残高	708	731
職員1人当りの貸出金残高	303	311

(注)預金残高には譲渡性預金を含んでおります。

有価証券の種類別・残存期間別残高

(単位:百万円)

科目	平成25年度						平成26年度					
	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超	期間の定め のないもの	種類別 合計	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超	期間の定め のないもの	種類別 合計
国債	8	727	8,627	1,448	-	10,811	511	732	3,492	1,761	-	6,498
社債	2,556	3,771	1,027	-	-	7,355	1,608	3,346	1,845	-	-	6,799
株式	-	-	-	-	202	202	-	-	-	-	179	179
外国証券	1,105	1,202	-	800	-	3,108	901	401	-	500	-	1,802
その他の証券	91	-	-	-	952	1,043	-	-	-	-	488	488
合計	3,761	5,702	9,654	2,248	1,155	22,521	3,021	4,480	5,337	2,261	668	15,769

資金調達

預金種目別平均残高

(単位:百万円、%)

種目	平成25年度		平成26年度	
	金額	構成比	金額	構成比
流動性預金	42,537	34.9	43,902	35.7
定期性預金	79,452	65.1	79,098	64.3
譲渡性預金	-	-	-	-
その他の預金	-	-	-	-
合計	121,990	100.0	123,001	100.0

財形貯蓄残高

(単位:百万円)

項目	平成25年度末	平成26年度末
財形貯蓄残高	142	132

定期預金の金利区分別残高

(単位:百万円、%)

種目	平成25年度		平成26年度	
	金額	構成比	金額	構成比
固定金利	73,511	99.02	72,276	99.09
変動金利	728	0.98	661	0.91
その他	1	0	1	0
合計	74,240	100.00	72,938	100.00

預金者別預金残高

(単位:百万円、%)

区分	平成25年度末		平成26年度末	
	金額	構成比	金額	構成比
個人	105,164	87.4	105,413	86.8
法人	15,228	12.6	16,065	13.2
一般法人	11,139	9.3	12,303	10.1
金融機関	44	0.0	25	0.0
公金	4,043	3.4	3,736	3.1
合計	120,392	100.0	121,478	100.0

資金運用

貸出金種類別平均残高

(単位:百万円、%)

種類	平成25年度		平成26年度	
	金額	構成比	金額	構成比
割引手形	112	0.2	110	0.2
手形貸付	3,021	5.8	3,181	6.2
証書貸付	47,764	92.5	47,393	92.2
当座貸越	757	1.5	739	1.4
合計	51,656	100.0	51,423	100.0

有価証券種類別平均残高

(単位:百万円、%)

種類	平成25年度		平成26年度	
	金額	構成比	金額	構成比
国債	9,783	44.0	11,305	51.5
地方債	2,846	12.8	2,631	12.0
短期社債	-	-	-	-
社債	5,400	24.3	4,450	20.3
株式	164	0.7	187	0.8
その他の証券	4,052	18.2	3,377	15.4
合計	22,247	100.0	21,952	100.0

(注)当組合は、商品有価証券を保有しておりません。

満期保有目的の債券

(単位:百万円)

	種 類	平成25年度			平成26年度		
		貸借対照表計上額	時 価	差 額	貸借対照表計上額	時 価	差 額
時価が 貸借対照表計上額を 超えるもの	国 債	-	-	-	-	-	-
	地方債	-	-	-	-	-	-
	短期社債	-	-	-	-	-	-
	社 債	99	104	4	99	102	2
	その他	500	513	13	-	-	-
	小 計	599	617	17	99	102	2
時価が 貸借対照表計上額を 超えないもの	国 債	-	-	-	-	-	-
	地方債	-	-	-	-	-	-
	短期社債	-	-	-	-	-	-
	社 債	-	-	-	-	-	-
	その他	300	270	△ 29	500	492	△ 7
	小 計	300	270	△ 29	500	492	△ 7
合 計		899	888	△ 11	599	595	△ 4

(注) 1.時価は、当事業年度末における市場価格等に基づいております。
 2.「社債」には、政府保証債、公社公団債、金融債、事業債が含まれます。
 3.上記の「その他」は、外国証券及び投資信託等です。

子会社・子法人等株式及び関連法人等株式で時価のあるもの

該当なし

その他有価証券

(単位:百万円)

	種 類	平成25年度			平成26年度		
		貸借対照表計上額	取得原価	差 額	貸借対照表計上額	取得原価	差 額
貸借対照表計上額が 取得原価を 超えるもの	株 式	111	150	39	152	124	27
	債 券	16,374	16,769	394	12,205	11,730	475
	国 債	9,832	10,113	280	6,498	6,127	371
	地方債	2,246	2,281	34	2,333	2,303	30
	短期社債	-	-	-	-	-	-
	社 債	4,295	4,374	79	3,373	3,299	73
	その他	2,812	3,058	237	1,571	1,419	151
	小 計	19,307	19,978	670	13,929	13,274	654
貸借対照表計上額が 取得原価を 超えないもの	株 式	25	24	0	0	0	0
	債 券	1,300	1,297	△ 3	992	997	△ 4
	国 債	700	697	△ 2	-	-	-
	地方債	399	399	0	-	-	-
	短期社債	-	-	-	-	-	-
	社 債	200	199	0	992	997	△ 4
	その他	301	287	△ 13	210	210	0
	小 計	1,627	1,609	△ 18	1,202	1,208	△ 5
合 計		20,935	21,587	652	15,132	14,483	648

(注) 1.貸借対照表計上額は、当事業年度末における市場価格等に基づいております。
 2.「社債」には、政府保証債、公社公団債、金融債、事業債が含まれます。
 3.上記の「その他」は、外国証券及び投資信託等です。

時価評価されていない有価証券の主な内容及び貸借対照表計上額

(単位:百万円)

項 目	平成25年度	平成26年度
	貸借対照表計上額	貸借対照表計上額
満期保有目的の債券	899	599
非上場外国証券	800	500
非上場事業債	99	99
子会社・子法人等株式及び関連法人等株式	-	-
子会社・子法人等株式	-	-
関連法人等株式	-	-
その他有価証券	34	37
非上場株式	27	27
非上場外国証券	-	-
千葉中小企業再生ファンド	2	5
千葉産業復興機構	3	3
ちば農林漁業6次産業化	0	1

金融再生法開示債権及び同債権に対する保全額

(単位:百万円、%)

区分		債権額 (A)	担保・保証等 (B)	貸倒引当金 (C)	保全額 (D)=(B)+(C)	保全率 (D)/(A)	貸倒引当金引当率 (C)/(A-B)
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	平成25年度	1,283	1,214	69	1,283	100.00	100.00
	平成26年度	1,491	1,355	136	1,491	100.00	100.00
危険債権	平成25年度	4,446	2,090	987	3,078	69.24	41.93
	平成26年度	3,878	1,936	898	2,835	73.11	46.29
要管理債権	平成25年度	397	130	17	147	37.15	6.52
	平成26年度	516	244	11	255	49.54	4.10
不良債権計	平成25年度	6,128	3,435	1,074	4,510	73.60	39.91
	平成26年度	5,886	3,536	1,046	4,583	77.86	44.53
正常債権	平成25年度	45,573					
	平成26年度	45,975					
合計	平成25年度	51,701					
	平成26年度	51,861					

- (注) 1.「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」とは、破産、会社更生、再生手続等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権です。
 2.「危険債権」とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権です。
 3.「要管理債権」とは、「3か月以上延滞債権」及び「貸出条件緩和債権」に該当する債権です。
 4.「正常債権」とは、債務者の財政状態及び経営成績に問題がない債権で、「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」、「危険債権」、「要管理債権」以外の債権です。
 5.「担保・保証等(B)」は、自己査定に基づいて計算した担保の処分可能見込額及び保証による回収が可能と認められる額の合計額です。
 6.「貸倒引当金(C)」は、「正常債権」に対する一般貸倒引当金を控除した貸倒引当金です。
 7.金額は決算後(償却後)の計数です。
 8.単位未満は切り捨てて表示しております。

リスク管理債権及び同債権に対する保全額

(単位:百万円、%)

区分		残高 (A)	担保・保証額 (B)	貸倒引当金 (C)	保全率(%) (B+C)/A
破綻先債権	平成25年度	265	243	22	100.00
	平成26年度	345	302	42	100.00
延滞債権	平成25年度	5,456	3,021	1,034	74.33
	平成26年度	5,013	2,859	992	76.82
3か月以上延滞債権	平成25年度	12	11	1	95.40
	平成26年度	97	89	2	93.29
貸出条件緩和債権	平成25年度	385	128	16	37.60
	平成26年度	418	155	9	39.35
合計	平成25年度	6,120	3,404	1,074	73.24
	平成26年度	5,875	3,406	1,046	75.79

- (注) 1.「破綻先債権」とは、元本又は利息の支払いの遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金(貸出償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。)のうち、①会社更生法又は、金融機関等の更正手続の特例等に関する法律の規定による更生手続開始の申立てがあった債務者、②民事再生法の規定による再生手続開始の申立てがあった債務者、③破産法の規定による破産手続開始の申立てがあった債務者、④会社法の規定による特別清算開始の申立てがあった債務者、⑤手形交換所の取引停止処分を受けた債務者、等に対する貸出金です。
 2.「延滞債権」とは、上記1. および債務者の経営再建又は支援(以下「経営再建等」という。)を図ることを目的として利息の支払いを猶予したものの以外の未収利息不計上貸出金です。
 3.「3か月以上延滞債権」とは、元本又は利息の支払いが約定支払日の翌日から3か月以上延滞している貸出金(上記1. および2. を除く)です。
 4.「貸出条件緩和債権」とは、債務者の経営再建等を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金(上記1.～3. を除く)です。
 5.「担保・保証額(B)」は、自己査定に基づく担保の処分可能見込額及び保証による回収が可能と認められる額です。
 6.「貸倒引当金(C)」は、リスク管理債権区分の各項目の貸出金に対して引き当てた金額を記載しており、リスク管理債権以外の貸出金等に対する貸倒引当金は含まれておりません。

貸出金担保別残高

(単位:百万円、%)

区分	平成25年度末		平成26年度末	
	金額	構成比	金額	構成比
当組合預金積金	1,725	3.3	1,576	3.0
有価証券	0	0.0	-	-
動産	-	-	83	0.2
不動産	25,580	49.6	25,756	49.7
その他	-	-	-	-
小計	27,305	52.9	27,416	52.9
信用保証協会・信用保険	12,941	25.1	12,501	24.2
保証	5,266	10.2	5,994	11.6
信用	6,108	11.8	5,872	11.3
合計	51,623	100.0	51,785	100.0

貸出金の金利区分別残高

(単位:百万円、%)

区分	平成25年度		平成26年度	
	金額	構成比	金額	構成比
固定金利	18,065	34.99	17,866	34.50
変動金利	33,558	65.01	33,919	65.50
合計	51,623	100.00	51,785	100.00

債務保証見返担保別残高

(単位:百万円、%)

区分	平成25年度		平成26年度	
	金額	構成比	金額	構成比
当組合預金積金	23	67.46	19	65.02
不動産	8	23.42	7	24.82
その他	-	-	-	-
小計	32	90.88	27	89.84
信用保証協会・信用保険	-	-	-	-
保証	3	9.12	3	10.16
信用	-	-	-	-
合計	35	100.00	30	100.00

貸倒引当金の内訳

(単位:百万円)

項目	平成25年度		平成26年度	
	期末残高	増減額	期末残高	増減額
一般貸倒引当金	40	△ 95	52	12
個別貸倒引当金	1,057	△ 41	1,035	△ 21
貸倒引当金合計	1,097	△ 137	1,087	△ 9

(注)当組合は、特定海外債権を保有しておりませんので「特定海外債権引当勘定」に係る引当は行っておりません。

貸出金業種別残高・構成比 (単位:百万円、%)				
業種別	平成25年度末		平成26年度末	
	金額	構成比	金額	構成比
製造業	2,668	5.2	2,872	5.5
農業	465	0.9	551	1.1
林業	-	-	-	-
漁業	274	0.5	272	0.5
鉱業	-	-	-	-
建設業	3,916	7.6	4,213	8.1
電気・ガス・熱供給・水道業	-	-	-	-
情報通信業	51	0.1	50	0.1
運輸業	954	1.8	882	1.7
卸売・小売業	4,736	9.2	4,773	9.2
金融・保険業	1,831	3.5	1,825	3.5
不動産業	3,154	6.1	3,106	6.0
物品賃貸業	4	0.0	9	0.0
学術研究、専門・技術サービス業	122	0.2	131	0.3
宿泊業	5,522	10.7	5,368	10.4
飲食業	1,928	3.7	1,789	3.5
生活関連サービス業、娯楽業	1,432	2.8	1,247	2.4
教育、学習支援業	17	0.0	97	0.2
医療、福祉	1,086	2.1	994	1.9
その他のサービス	3,654	7.1	3,935	7.6
その他の産業	317	0.6	379	0.7
小計	32,139	62.3	32,503	62.8
地方公共団体	3,981	7.7	3,803	7.3
雇用・能力開発機構等	-	-	-	-
個人(住宅・消費・納税資金等)	15,502	30.0	15,478	29.9
合計	51,623	100.0	51,785	100.0

(注)業種別区分は日本標準産業分類の大分類に準じて記載しております。

消費者ローン・住宅ローン残高 (単位:百万円、%)				
区分	平成25年度末		平成26年度末	
	金額	構成比	金額	構成比
消費者ローン	1,162	11.85	1,253	12.98
住宅ローン	8,647	88.15	8,402	87.02
合計	9,810	100.0	9,655	100.0

貸出金使途別残高 (単位:百万円、%)				
区分	平成25年度末		平成26年度末	
	金額	構成比	金額	構成比
運転資金	24,069	46.6	24,043	46.4
設備資金	27,553	53.4	27,741	53.6
合計	51,623	100.0	51,785	100.0

代理貸付残高の内訳 (単位:百万円)		
区分	平成25年度末	平成26年度末
全国信用協同組合連合会	-	-
株式会社 商工組合中央金庫	-	-
株式会社 日本政策金融公庫(中小企業事業)	-	-
株式会社 日本政策金融公庫(国民生活事業)	16	15
独立行政法人住宅金融支援機構	1,900	1,636
独立行政法人福祉医療機構	31	27
独立行政法人 雇用・能力開発機構	-	-
その他	8	7
合計	1,955	1,685

平成26年度末公庫・事業団等別貸出残高構成比 (単位:%)	
全国信用協同組合連合会	-
株式会社 商工組合中央金庫	-
株式会社 日本政策金融公庫(中小企業事業)	-
株式会社 日本政策金融公庫(国民生活事業)	0.9
独立行政法人住宅金融支援機構	97.1
独立行政法人福祉医療機構	1.6
独立行政法人 雇用・能力開発機構	-
その他	0.4
合計	100.0

貸出金償却額 (単位:百万円)		
項目	平成25年度	平成26年度
貸出金償却額	279	378

国際業務

外国為替取扱高 (単位:千ドル)		
区分	平成25年度	平成26年度
貿易	434	33
輸出	45	33
輸入	389	-
貿易外	268	50
合計	702	83

外貨建資産残高 (単位:千ドル)		
項目	平成25年度	平成26年度
外貨建資産残高	-	-

証券業務

公共債引受額 (単位:百万円)		
項目	平成25年度	平成26年度
国債	-	-

(注)地方債、政府保証債は取り扱っておりません。

公共債窓販実績 (単位:百万円)		
項目	平成25年度	平成26年度
国債・その他公共債	453	367

その他業務

当組合の子会社 (平成27年4月1日現在)

該当する取引はありません

(注)上記「子会社」は、協同組合による金融事業に関する法律第4条の2(信用協同組合の子会社の範囲等)に規定する会社です。

国内為替取扱実績 (単位:百万円)					
区分		平成25年度		平成26年度	
		件数	金額	件数	金額
送金・振込	他の金融機関向け	105,660	54,907	103,359	55,238
	他の金融機関から	124,699	52,173	127,979	52,746
代金取立	他の金融機関向け	55	11	65	51
	他の金融機関から	69	30	111	81